

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 岩手高齢協 ほっともとみや(ユニット②)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100022		
法人名	岩手県高齢者福祉生活協同組合		
事業所名	岩手高齢協 ほっともとみや(ユニット②)		
所在地	〒020-0866 盛岡市本宮6丁目14-12		
自己評価作成日	令和5年12月6日	評価結果市町村受理日	令和6年4月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・一人一人の出来る事、やりたい事を職員と共に実現できるよう支援している。・一緒に衣類を買いに行ったり、本屋で本を買ったり希望にそって暮らして頂いている。・レクリエーションでも塗り絵、壁飾りの作品と一緒に作っている。苦手な方が笑顔で作り上げるよう1対1での対応をしたり日々の生活の中で達成感を感じる事が出来るよう工夫している。・生きる事の喜びを感じ笑顔の多い日常を過ごして頂いている。・季節毎の行事をいろいろ工夫し、食事も手作りし楽しんで頂いている。・認知症を持つ方が長く安全に過ごされるために、介護度が上がっても受入れている。・共同生活をしている場として理解度の差や、身体の違い、認知機能の差など個人差があればあるほど難しいが、1人1人に目を向け共に過ごせている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

盛岡市の西南部に位置する2階建ての2ユニットの事業所である。周辺には病院や医院、介護施設があり、医療と福祉、介護との連携が出来上がっている。終末期の対応は職員全員が経験しており、訪問診療医や訪問看護師との連携のもとで、利用者・家族の希望に十分に答えることができています。開設時に職員で決めた「みんなの和・輪・話を大切に毎日笑いのある楽しい生活を目指します」の理念を、利用者一人一人の想いに添えるよう日々ケアの実践に活かしている。事業所の近隣住民を始め、地区自治会との協力が日常的に行われ、地区で運営している花壇が事業所にも割り当てられ、事業所で水遣り等ができないときには、他の住民が代わってやってくれている。また、職員会議や個人面談、アンケートの実施により、職員の提案や勤務条件などの要望等を聴き取り、行事や施設の整備、職員の資質の向上を図り、より充実した介護サービスの提供に努めている。加えて、コロナ禍にあって、その動向を見ながら、ボランティアの受け入れなど地域住民との交流にも積極的に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年1月19日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや(ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつも過ごしているリビングに掲示し、カンファレンス、ミーティングの資料、わわわ通信へも載せている。日々の生活の中で利用者様と、共に笑い、共に泣き、共に怒ったりを共有し過ごしている。	開設当初から掲げている「この本宮地区で、みんなの和・輪・話を大切に、毎日笑いのある楽しい生活を目指します」とする理念は、事業所にすっかり定着し、職員にも馴染んだものになっている。この理念を基礎に年度目標を立て、家族的な雰囲気大切に利用者へ寄り添い、利用者の意向を聞き取り、利用者本意の介護サービスを提供している。	事業所理念を壁に掲示し、職員が日常的に確認できるようになっているが、活動目標等、検討した内容も日常的に確認できるように工夫することで、より理念の実践に結びつけることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の農家さんよりお米の購入。運営推進会議では公民館を利用させて頂き交流をしている、(利用者様はコロナやインフルエンザなどで難しい)地域の花壇作業への参加。近所の方より使用しなくなったオムツなどの提供もある。	本宮町内会に加入している。町内会活動の一つでもある花壇が事業所に割り当てられ、その手入れを住民の協力のもとで行っている。また本の読み聞かせのボランティアが月に1回訪問している。近所の方から使わなくなった紙おむつの提供があるなど、地域に溶け込んだ運営を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し通信を作成し施設の様子を伝えている。通信は来客者はいつでも見れる様に玄関へ掲示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加して頂いている。生活保護の担当の方との連絡も密にし関係を築けている。	町内会長、民生委員、市介護保険課、家族がメンバーとなり2か月に1回開催している。事業所からは利用者の近況等を報告し、その報告等に対する意見や質問等は、認知症などに対するメンバーの理解にも繋がっている。委員から地域の動きや感染症対策などの助言や提案があり、業務に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加して頂き施設の状況を把握していただいている。生活保護者のケースワーカーの方とも、面談したり連絡を密にして関係を築いている。	運営推進会議では市の担当者から情報提供、助言を得ているほか、要介護認定申請のため市の窓口に出かけたときにも様々な情報提供をいただいている。生活保護担当者との交流・連携の機会もある。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや(ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を活用。資料を通し職員で共有。日々、気づける様職員同士でケアを確認しあっている。	身体拘束廃止委員会を3か月に1回開催している。研修は年に1回、勉強会はミーティング検討会と併せて3か月毎に行っている。今年度は職員に身体拘束についてのアンケートを実施し、それを受けての検討会を開催して身体拘束についての職員の理解を深めることが出来たとしている。身体拘束の事例は無いが、尿道カテーテルの使用が支障なくできるように設置した柵やスピーチロックなど、気が付いた時には職員間で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しても身体拘束委員を活用し、資料を確認しそれぞれが自覚を持ち、声を掛け合いながら虐待が行われていないか十分に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修へ参加した職員から資料の配布とアンケートを行い理解し、自立支援の手続きをしたり、成年後見制度も利用されていた方がいたため活用できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、説明を行い理解して頂き現状を見て、説明・理解し納得したうえで入所して頂いている。不安や疑問にもその都度説明することで安心して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族様にも参加して頂き意見を頂いている。施設内にもご意見箱を設置している。面会・受診など来所の際にもご意見を頂き、ケアプランへも反映させている。	面会や運営推進会議で来所したり、家族に電話連絡した際に意見を伺っている。病院受診時に主治医に伝える内容を直接主治医にFAXして欲しいとの意見があり、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや全体ミーティング以外でも、日ごろから職員の意見や、相談を聞き本部会議に等に提案を行い反映出来るように努めている。	カンファレンスや全体ミーティングの機会を通じ、職員個々の意見等を聴き取り、職員アンケートを通じ職員全員の意見を把握している。職員の提案や研修参加の希望などを基礎に、日々の業務に活かしたり、資格取得の支援などに反映させている。	

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや(ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の体調・体力などを考慮し労働時間や休日の調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リモート研修もあり、積極的に受講できている。個々で希望のある場合も参加出来、資料にまとめ目を通すことで職員全員が学べる機会に繋がっている。施設内でも一人一人の利用者にあう適切なケアについて独自に研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修への参加で他の施設との情報交換や、法人内のGHと意見交換しサービスの質を向上させている。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の様子を見ながら傾聴し何に対して不安を感じているのかを早く気づける様にし家族からも生活歴を聞き小さな情報も見逃さないようにしている。声に出せない方にも気づく事で信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に施設見学を受入れ、ご本人・ご家族様の要望をしっかりと聞き取り、不安な所に耳を傾けて信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様の希望を伺い今、何を必要としているのかを見極めプランへ反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活しながらモップがけ、テーブル拭き、お盆拭き、洗濯物干しなど行うことでお互いを支え合い本人の励みにもなるように信頼関係をきずいている。		

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや(ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	携帯電話を所有している方も数名おり、いつでもご家族やご友人と繋がりを持てるようになっている。面会制限もあるが、状況の変化は常に報告し、LINEで画像を送り喜んで頂いている。ご家族様との面会や交流を多く取ることをプランへも反映させている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話で兄弟やご友人と連絡をして頂いている。面会はいつでも可能にしている。	前職員による買物支援や利用者の教え子によるボランティアなどを受け入れている。テレビ電話で家族と連絡を取っている利用者もいる。外出が難しいなか、娘からのコウセンの粉のお菓子を手に取り昔を懐かしんでいる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが手作業のレクリエーション活動を積極的に取り入れ苦手な方の隣にスタッフが入りサポートする事で嫌な思いをすることがないようにし耳の聞こえの悪い方も同様にサポートし、利用者同士の関りを持つことが出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	逝去退所された方のご家族様と偶然お会いした際にはお声を掛けさせて頂きお話をする機会をもうけ、そのご家族様から、「次は、自分がもともやに世話になりたい。」と、言ってもらっている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活や会話から希望を汲み取りどのようにすると叶えられるのかをカンファレンス以外でも検討している。(本屋へ行きたい。大福が食べたい。週刊誌が読みたい。衣類を買いに行きたい。などの希望に同行した)	ほとんどの利用者は言葉によるコミュニケーションが出来、家に行きたい、歩きたいなどの希望を話している。コミュニケーションが困難な利用者については、表情等でも確認するようにしている。日記や塗り絵、水彩画など、個人の趣味にも配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に情報は収集しているが、入所後に日常の問題点を家族に相談や報告をすると、「実は、家でもそうでした。」と、後々に、言われることが多々あり、小さな事でも把握できるように努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや(ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自宅での暮らし方も情報収集し、ここの生活のADLなどの状態を日々確認し合い、チャートに記入したりスタッフは、いつでも共有出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中での変化に気づき、スタッフ1人の意見ではなく、スタッフ1人1人の意見や視点から課題とケアを見つけ様々なケアを試し、リスクも考えたうえでプランを作成している。	3か月ごとに評価し、見直している。評価する際のモニタリングは日々の状態をチャートに記録し、その状況を職員全員で検討して行っている。家族の意向は訪問時や電話で確認している。医療的な支援が必要な場合には、主治医や訪問看護師の意見を得て介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チャート記入、情報の引き継ぎ、連絡ノートを活用している。特に体調に変化が見られた際は、その時の状態や経過を細かく具体的に記入し申し送りに努め共有出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状態を、要望に応じ、体調の変化などで食事形態を変えたり、リビングの大きなTVで昔のアイドルや時代劇などのYouTubeを観れるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1度、読み聞かせのボランティアに来て頂き、一緒に手遊びをしたりし楽しみ、敬老会でも、スコープ三味線の方を招待し、利用者様も一緒に演奏に加わり楽しむことが出来ました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	高齢で受診が難しい方や、ご家族が遠方の方へは往診へ切り替えの支援を行いスタッフが日々の状態をDrへ伝えられる事により安心な医療を受けて頂いている。家族受診でも、日々の様子を伝えバイタルのコピーを提供している。	基本的には家族同伴で入居前のかかりつけ医を受診している。通院等が困難な状態になった場合には、家族の意見・要望を確認の上で訪問診療に変えるなどし、適切に医療機関の受診は適切に行われている。受診時には医師に説明し、資料を提供しているほか、必要に応じて、動画も提供している。訪問診療受診後は、家族への報告やカルテへの記録を行っている。	

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや(ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の定期訪問の他、24時間対応しており、指示を頂いたり、Drへ繋いで頂いたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院との情報交換は密に連携を図りながら関係づくりに努めている。入院が長引かない様に施設生活の中でリハビリをして頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人に対して、今、スタッフが出来る事を医師や訪問看護師と相談を密にし、ご家族様の希望もふまえその都度連絡し合い、共有し、看取りをすることができた。	開設以来、20人以上の看取りを行っている。そのため、職員全員が看取りの経験を有し、利用者・家族の要望に応えることができています。身体機能が低下し入浴が非常に困難となり、事業所での対応ができない利用者については、対応可能な施設への住み替えを奨めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の体調を把握し、24時間対応の訪問看護師へ連絡し指示を頂いている。カンファレンス等で、初期対応などを定期的に話し合っている。各連絡先も目の届く所に置いてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マップを目の届く所に掲示。昼・夜間の避難訓練を行い、地域の方へ見守りをして頂き、夜間の避難経路の危険箇所などの確認を行った。	大家の協力を得て通常火災、夜間想定訓練を実施し、併せて職員への通報、参集訓練も行っている。ハザードマップ上の地域指定、避難場所を確認しているが、消防署の助言により、2階の踊り場への避難としている。食料の備蓄、ガスコンロ、カセットコンロを確保している。今後、ソーラーの活用を検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの尊重、個々を理解し、その方に合った声掛けや、他者がいる場面では耳元で伝えたり、場所を変え伝えたりの対応をしている。スタッフによって、年齢や性別でそれぞれがその方に合った対応を考え行っている。	入浴時の異性介助の問題はないが、希望があれば対応している。職員間で情報を共有する際には、個人名は使わないよう留意している。個人情報事務室で管理し、機関紙への写真掲載は予め家族の同意を得ている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや(ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちを尊重し、思いを伝えやすい雰囲気作りにも努めている。レクリエーションでも好きな色やデザインを選んで頂いている。思いを聞きプランへも反映させとても喜んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活のペースに合わせた暮らしをして頂いている。(起床時間や食事の時間)車いすの利用者でもどう過ごしたいのかを聞き支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師を利用して、ご本人が希望を伝えカットして頂いている。朝の着る服もご自分で選んで頂いたり、服の購入の同行支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には希望の食事を提供。行事の際は、スタッフの手作りで豪華なお弁当を作り大喜びして頂いている。季節物の、フキや、柿の皮むきと一緒に召し上がりました。	献立、食材の確保、調理は職員が行なっている。近隣住民からの野菜の提供や家族から果物やおやつ差し入れがある。スイート、温麺、粕酒など、希望に応じている。節句ごとの料理のほか、誕生会のケーキ、敬老会の豪華弁当、寿司なども提供している。利用者に調理の下準備を手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	提供量を10として、食事量・水分量を分かりやすくチャートへ記入している。状態に応じて食べたい物・食べれる物を提供出来るようにしている。その時により、医師や訪問看護師へ報告もでき利用者の病気の発見も出来た。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けを行い、その方の状態に応じ口腔スポンジでのケアも行っている。訪問歯科による検診も行い口腔ケア方法の指導もして頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じた対応に心がけている。(時間を見て声掛けをしている。)	寝たきりの利用者以外はトイレでの排泄支援を行っている。排泄チェック表で動向を把握し、それとなく様子を見て対応している。自立者は3名で他は見守り、ふき取りなどの支援をしている。カテーテル使用1名、ホータブルトイレを4名が使用している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや(ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表の活用。水分摂取、毎日のヨーグルトの提供。食事メニューには食物繊維を多くとれる工夫をしている。運動の促しも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1対1での時間を大切にしながら、立位が難しくなった方でも浴槽に入りたい希望の方へは、ご本人の可動域を考慮し安全に入浴を楽しむ事が出来るようにスタッフ2人対応での支援を行っている。	入浴回数を週に何回と決めずに、利用者の状況に合わせている。声掛けをしても拒否的な方には無理強いせず、時間を変えたりし、毎朝清拭をしている。重度化した場合は、シャワー浴で2名の職員が対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に応じて対応している。日中にレクリエーション活動をして夜はゆっくり休めている方もおります。年齢も考慮し休息の促しも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報をファイリングしている。日々の状況を記録し把握。誤薬のないようにスタッフ間で声出し確認を行っている。医師や、訪問看護・薬剤師と連携し副作用や、リスクについても研修を受けたり相談を行ったりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭き、洗濯干し、モップ掛けを一緒にやっている。個々の希望を出来るだけ叶え、コーヒーやジュース、大福などで気分転換して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望の中で家族との外食やドライブの機会を作ってあげている。本屋へ行きたいと希望された方にはスタッフが同行し本の購入をされとても喜んで頂きました。	天気の良い日は、日向ぼっこを楽しんだり、ベランダで洗濯干しなども行なっている。遠野の道の駅に出かけ、食事や買物を楽しんだ。数人で花見、菊見学、ジェラードを食べにドライブに出かけたりしている。通院の帰りに家族と出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望で現金を所持されている方は居ますが、施設側で預かっている。ご家族様にご理解を頂き、ドライブでの昼食でご本人に選び会計して頂きました。(3,000円のコーヒーカップを購入した方もありました。)		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや(ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は2名おり自由に連絡をとりあっている。希望する方には、スタッフが電話をして本人と話をしている。寝たきりの利用者様が遠方にいる娘さんとLINEのテレビ電話をして5年ぶり位に顔を見れたと喜んで頂いた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の温度・湿度・換気にはかなり注意を払っている。(窓を開ける。)施設の壁には利用者様と一緒に作った季節の物を飾ったりしている。	リビングには、食事用のテーブル、ソファ、テレビ等があり、利用者は、思い思いの場所で寛いでいる。1階は大型の引き戸で、2階は天窓があり、室内は明るく、壁には利用者の作品や写真などが飾られている。近いうちに、みずき団子作りをして出来上がったものを飾る予定である。家族からの鉢や切花の提供もある。温度は蓄熱、エアコンなどで適正に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1・2階は自由に行き来できる。居室で過ごしたり、食席でTVや雑誌を読んだり、談笑したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物、ご家族様、お孫さん、遺影、ご自分の作品や塗り絵を飾ったりしている。車いすや、杖歩行の方などへは居室環境を整えている。	ベッド、クローゼット、蓄熱暖房が設置され、利用者はテレビ、筆筒、家族写真、遺影写真などを持ち込んでいる。利用者の意向に沿った配置、居所となっている。表示は、個人名、花など、希望に沿って対応している。センサーは2名が使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者1人1人が今、出来る事を理解し、1人で出来る事は注意を促し声掛けをし、見守り支援を行っている。狭い空間の中でも自ら身体を動かし運動されている方もいる。トイレや廊下の手すりにつかまり、足踏み運動などもされている。		